

1

解説

(1)  $3x = -3x + 12k$  とおくと  $6x = 12k$

したがって  $x = 2k$

これを  $y = 3x$  に代入すると  $y = 6k$

よって、 $y = 3x$  と  $y = -3x + 12k$  の共有点の座標は

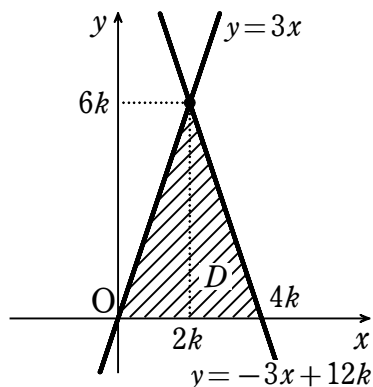
$$(2k, 6k)$$

$-3x + 12k = 0$  とおくと  $3x = 12k$

したがって  $x = 4k$

よって、 $y = -3x + 12k$  と  $x$  軸の共有点の座標は

$$(4k, 0)$$



以上から、領域  $D$  は右の図の斜線部分。ただし、境界線を含む。

すなわち、 $D$  は 3 点  $(0, 0)$ ,  $(2k, 6k)$ ,  $(4k, 0)$  を頂点とする三角形の周および内部である。

$k=1$  のとき、 $D$  は右の図のようになり、 $D$  に含まれる

格子点の個数は  $\overset{\text{エ}}{17}$  個

整数  $j$  が  $0 \leq j \leq 2k$  を満たすとき、 $D$  に含まれる格子点で  $x$  座標が  $j$  である点の個数は、 $y$  座標が  $0, 1, 2, \dots, 3j$  の  $(3j + 1)$  個ある。

したがって、 $D$  に含まれる格子点で  $x$  座標が  $0$  以上  $2k$  以下である点の個数  $q$  は

$$q = \sum_{j=0}^{2k} (3j + 1) = \sum_{j=1}^{2k} (3j + 1) + (3 \cdot 0 + 1)$$

$$= 3 \cdot \frac{1}{2} \cdot 2k \cdot (2k + 1) + 1 \cdot 2k + 1$$

$$= 6k^2 + 5k + 1$$

$D$  は直線  $x = 2k$  に関して対称であるから、 $D$  に含まれる格子点で  $x$  座標が  $(2k + 1)$  以上  $4k$  以下である点の個数は、 $x$  座標が  $0$  以上  $(2k - 1)$  以下である点の個数と等しい。

$x$  座標が  $2k$  である点の個数は  $3 \cdot 2k + 1 = 6k + 1$  (個)

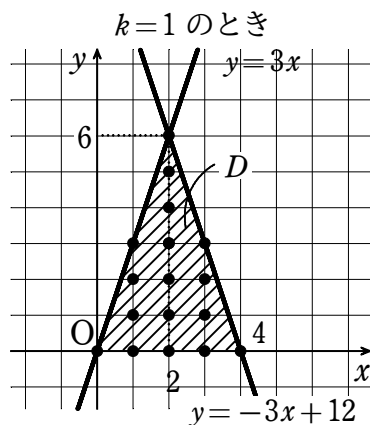
したがって  $6k^2 + 5k + 1 - (6k + 1) = 6k^2 - k$  (個)

よって、 $D$  に含まれる格子点の個数  $p$  は

$$p = 6k^2 + 5k + 1 + (6k^2 - k) = 12k^2 + 4k + 1$$

(2)  $n=1$  のとき、 $1 \leq z \leq 2$  であり、 $z$  は整数であるから  $z = 1, 2$

すなわち、4 つの不等式を満たす整数の組  $(x, y, z)$  の個数  $r$  は、(1) で求めた格子点の



個数  $p$  の  $k=1$  のときと  $k=2$  のときの和と一致する。

$$\text{よって } r = (12 \cdot 1^2 + 4 \cdot 1 + 1) + (12 \cdot 2^2 + 4 \cdot 2 + 1) = 17 + 57 = \text{ソタ}74$$

一般に、4つの不等式を満たす整数の組  $(x, y, z)$  の個数  $r$  は、(1) で求めた格子点の個数  $p$  の  $k=1$  のときから  $k=2n$  のときまでの和と一致する。

$$\begin{aligned} \text{すなわち } r &= \sum_{k=1}^{2n} (12k^2 + 4k + 1) \\ &= 12 \cdot \frac{1}{6} \cdot 2n(2n+1)(2 \cdot 2n+1) + 4 \cdot \frac{1}{2} \cdot 2n(2n+1) + 1 \cdot 2n \\ &= 4n(2n+1)(4n+1) + 4n(2n+1) + 2n \\ &= 32n^3 + 24n^2 + 4n + 8n^2 + 4n + 2n = \text{チツ}32n^3 + \text{テト}32n^2 + \text{ナニ}10n \end{aligned}$$

2

解説

(1)  $X$  が正規分布  $N(50, 9^2)$  に従うとき、 $Z = \frac{X-50}{9}$  は標準正規分布  $N(0, 1)$  に従う。

$$X=45.5 \text{ のとき} \quad Z=-0.5$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad P(X \geq 45.5) &= P(Z \geq -0.5) = 0.5 + P(0 \leq Z \leq 0.5) \\ &= 0.5 + 0.1915 = 0.6915 \end{aligned}$$

$$X=63.5 \text{ のとき} \quad Z=1.5$$

$$\text{よって} \quad P(X \geq 63.5) = P(Z \geq 1.5) = 0.5 - P(0 \leq Z \leq 1.5) = 0.5 - 0.4332 = 0.0668$$

(2) 母平均 50, 母標準偏差 9 の母集団から、大きさ 144 の標本を無作為抽出するとき、  
標本平均の平均 (期待値) は  $50$

$$\text{標準偏差は} \quad \frac{9}{\sqrt{144}} = \frac{9}{12} = 0.75$$

(3) 標本平均は 51.0, 母標準偏差は 9, 標本の大きさは 144 であるから、母平均  $m$  に対する信頼度 95 % の信頼区間は

$$51.0 - 1.96 \cdot \frac{9}{\sqrt{144}} \leq m \leq 51.0 + 1.96 \cdot \frac{9}{\sqrt{144}}$$

$$\text{よって} \quad 51.0 - 1.47 \leq m \leq 51.0 + 1.47$$

$$\text{ゆえに} \quad 49.53 \leq m \leq 52.47$$

小数第 2 位を四捨五入すると  $49.5 \leq m \leq 52.5$

(4) 信頼度 95 % の信頼区間の定義から、信頼区間が母平均  $m$  を含む確率は 95 % すなわち 0.95 である。

$$\text{よって, } Y \text{ は二項分布 } B(304, 0.95) \text{ に従うから, 平均は} \quad 304 \cdot 0.95 = 288.8$$

$$\text{標準偏差は} \quad \sqrt{304 \cdot 0.95 \cdot 0.05} = \sqrt{4^2 \cdot 19 \cdot \frac{5 \cdot 19}{10^2} \cdot \frac{5}{10^2}} = \frac{4 \cdot 19 \cdot 5}{10^2} = 3.8$$

$$\text{よって} \quad P(Y \leq 285) = P\left(\frac{Y-288.8}{3.8} \leq \frac{285-288.8}{3.8}\right) = P\left(\frac{Y-288.8}{3.8} \leq -1.00\right)$$

304 は十分大きいから、 $Z = \frac{Y-288.8}{3.8}$  は近似的に標準正規分布  $N(0, 1)$  に従う。

$$\text{したがって} \quad P(Z \leq -1.00) = 0.5 - P(0 \leq Z \leq 1) = 0.5 - 0.3413 = 0.1587$$

小数第 2 位を四捨五入すると  $P(Z \leq -1.00) = 0.16$

3

解説

 $0 \leq x < 1$  のとき

$$\begin{aligned}
 g(x) &= \left| \int_0^x f(t) dt \right| + \left| \int_x^1 f(t) dt + \int_1^2 f(t) dt \right| \\
 &= \left| \int_0^x (-2t+1) dt \right| + \left| \int_x^1 (-2t+1) dt + \int_1^2 (4t-5) dt \right| \\
 &= |-x^2+x| + |x^2-x+1|
 \end{aligned}$$

 $0 \leq x < 1$  で  $-x^2+x \geq 0$ ,  $x^2-x+1 > 0$  であるから  $g(x) = 1$  $1 \leq x \leq 2$  のとき

$$\begin{aligned}
 g(x) &= \left| \int_0^1 f(t) dt + \int_1^x f(t) dt \right| + \left| \int_x^2 f(t) dt \right| \\
 &= \left| \int_0^1 (-2t+1) dt + \int_1^x (4t-5) dt \right| + \left| \int_x^2 (4t-5) dt \right| \\
 &= |2x^2-5x+3| + |2x^2-5x+2|
 \end{aligned}$$

ここで,  $2x^2-5x+3 = (2x-3)(x-1)$  であるから,

$$1 \leq x < \frac{3}{2} \text{ で } 2x^2-5x+3 \leq 0,$$

$$\frac{3}{2} \leq x \leq 2 \text{ で } 2x^2-5x+3 \geq 0$$

また,  $2x^2-5x+2 = (2x-1)(x-2)$  であるから,  $1 \leq x \leq 2$  で  $2x^2-5x+2 \leq 0$ よって,  $1 \leq x < \frac{3}{2}$  で

$$g(x) = -4x^2 + 10x - 5 = -4\left(x - \frac{5}{4}\right)^2 + \frac{5}{4}$$

$$\frac{3}{2} \leq x \leq 2 \text{ で } g(x) = 1$$

したがって,  $y = g(x)$  のグラフは右の図のようになる.よって,  $x = \frac{5}{4}$  のとき最大値  $\frac{5}{4}$  をとる.